

八日市場・干潟

貴重な「過去帳」

如来寺に残る郷土資料

寺院の「過去帳」は寺にとつていちはん大切な書物である。

死者の氏名、地区名、戒名、法名、死亡年月日、年齢、続柄などを記すのが一般的な記載方法である。

八日市場市長谷の天台宗竜加持山無量院如来寺（住職・林宗順師）の過去帳はユニークな過去帳で、村々の出来事まで記載してあり郷土資料にもなっている。

江戸時代から歴代住職が、法事のことばかりでなく、村で起きた問題などおりおりの事象を書き添えているもので、全部で十五冊が和紙をとじた冊子になっている。

過去帳の大きさは概ね縦二十八センチ、横二十センチ。

年代別に整理されているが現存している古いものは寛文年間（一六六一〜一六七二年）から明治年間（一八六八〜一九一一年）まで墨書で記され、重要な部分は朱書になっている。

過去帳の一部を抜粋してみると――。

▽貞享二年（一六八五年）大つごもり（大晦日のこと）から三月まで十七度もの大雪が降り、この年四月より九月までの大日照りに田畑、竹、木が枯れ果て、米の相場四斗三升なり。

▽享保十六年（一七三一年）九月十七日大風、洪水、朝五ツ（午前八時）より八ツの下刻（午後三時）ま

で方々の家破損すること多し。大木、小木折れること前代未聞。

▽享保二十年（一七三五年）春飢饉、飢え死にするもの多し、麦作半、秋は中作なり。値段両に二石四斗。七月より漁事あり、極月（十二月）まで大漁。浦方富貴、九月神宮寺村、浜に海の亀、子を産むこと数知れず。冬中暖なること秋のごとし。

▽安政五年（一八五八年）六月二十二日、朝五ツ時（午前八時）大雨にて当邑（村）吉崎両村へ竜下り、家破損すること数知れず。そのほか麦など田畑を荒す、人多く死す、大木、小木折れること数知れず。

▽慶応四年（一八六八年）十月中、当国八日市場と松山村との地所において常州（茨城）水戸侍ども大隼人（天狗党）即死すること三十人ばかり——とある。

この過去帳は現在、八日市場市の指定文化財となっており、寺で嚴重に保管している。

林住職は「歴代住職がこれだけ多くの記録を残してくれたので時代の変遷がよく理解できます。私もこの意志を引き継ぎ、主な事件、できごとを記録しておくようところがけています」と話している。